

# 第3期市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析について

## (目的)

- ① 計画の成果や課題等を庁内で共有し、次年度以降の事業計画にいかすことにより、計画の着実な推進を図る。
- ② 市民に京都市の市民参加の現状や成果を伝え、市民参加の効果を実感してもらうことにより、市政への信頼度の向上や、市民のさらなる行動促進につなげる。

## (案)

第3期計画の計画期間(5年間)で、主に施策ごとに成果や課題を分析する。

## <分析の年度スケジュール(案)>

重視する視点	R3	R4	R5	R6	R7
1 「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進	○	○	○	○	○
2 次世代につながる市民参加の裾野の拡大	○	○	○	○	○
3 協働による課題解決の挑戦		○	○	○	○

基本方針1 市民との未来像・課題の共有	R3	R4	R5	R6	R7
施策1 到達を重視する情報発信	○				○
施策2 信頼や学びにつながる「市民と職員との対話」の推進	○	○			○
施策3 共創のための「多様な主体の対話」の推進			○	○	○
基本方針2 市民の市政への参加の推進	R3	R4	R5	R6	R7
施策4 市政参加の機会の充実	○				○
施策5 誰もが参加しやすいデザイン		○	○		○
施策6 協働の成果や手ごたえの共有		○		○	○
施策7 次世代につながる市政参加	○				○
施策8 協働する市政分野の拡大と新たな挑戦			○	○	○
基本方針3 市民のまちづくり活動の活性化	R3	R4	R5	R6	R7
施策9 まちづくりに取り組むきっかけづくり	○				○
施策10 SDGsを背景とした多様な主体の参画促進		○			○
施策11 地域コミュニティ活性化への支援		○			○
施策12 持続可能なまちづくりを支援する仕組み				○	○
施策13 多様な主体の協働による社会課題解決への挑戦			○	○	○

※令和7年度は、第3期計画の最終年度として、3年度～7年度までの成果と課題を総括する。

## <分析の流れ(例:施策1)> ※昨年度までの分析方法を継続するもの

① 施策に関連する各局区等の事業や取組を取りまとめる。

※以下のような資料を用意(事業や取組については、さらに詳細に記載)

施策1の記載内容	関連する取組
(1) 重要な市政課題の自分ごと、みんなごと化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要課題と各政策分野のテーマを紐づけて、当事者として課題を意識してもらう工夫 (重要課題と各政策分野の関係を意識した情報発信 など)</li> </ul>
(2) 想像しやすく実感が湧きやすい情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信に際して、暮らしとの関わりや影響を想像しやすくする工夫 (現状や効果、影響を言葉だけでなく数値であらわす、図やグラフを使う など)</li> </ul>
(3) ターゲットを意識した情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・届けたい対象が触れる機会の多い媒体や集まる場所での情報発信</li> <li>・発信した情報の到達度の確認</li> <li>・利活用しやすい形式でのオープンデータの推進</li> </ul>
(4) 人づてによる情報発信の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の情報発信や口コミ等の力を、市政やまちづくりに活かす取組 (活動している方など生の声を通じた情報発信、SNS等を利用した興味を持った市民同士の情報の伝播の工夫 など)</li> </ul>

② 効果的に行われている取組や、不足している取組などを分析する。

書面での分析だけでなく、関係部署にヒアリングを行う。

(特徴的な取組を行っている部署、施策の推進に当たり中心的な役割を担う部署など)

<分析の流れ> ※分析及び評価のための新たな方法・指標を検討するもの

## 「市民力」という、 数値で測りがたい部分についての指標の設定

- ① 「市民力」「地域力」等に援用できる考え方，指標を探る。
- ② 京都市が現在実施しているアンケート等，現存するデータから分析できること，  
現在ないデータで取る価値があると思われる指標を検討する
- ③ 他都市の評価基準，測定手法等を参考に指標を検討する。



「市民力指標検討部会(仮)」で議論していただく。

- ④ 指標の設定
- ⑤ 「市民力」等を評価